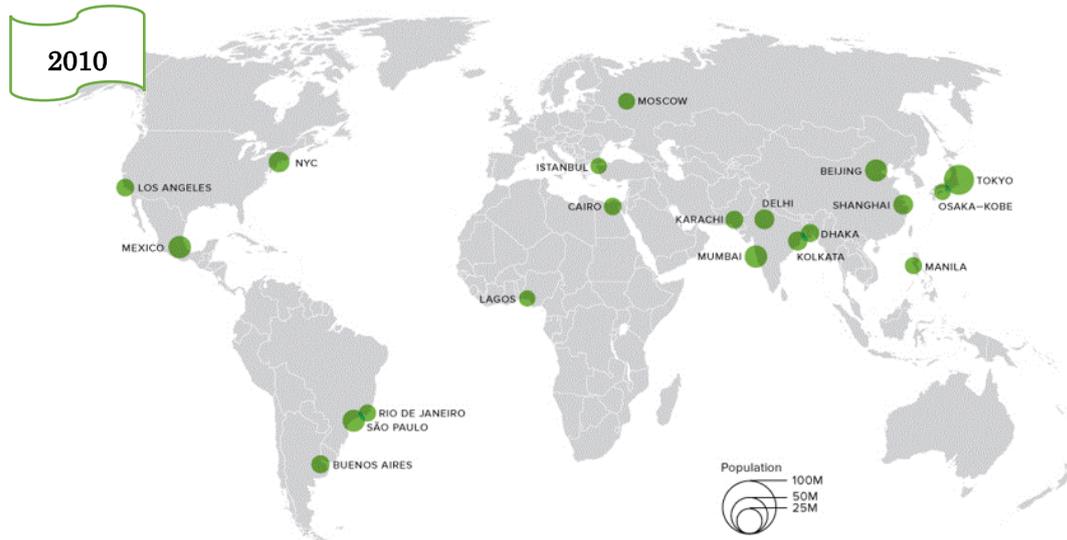




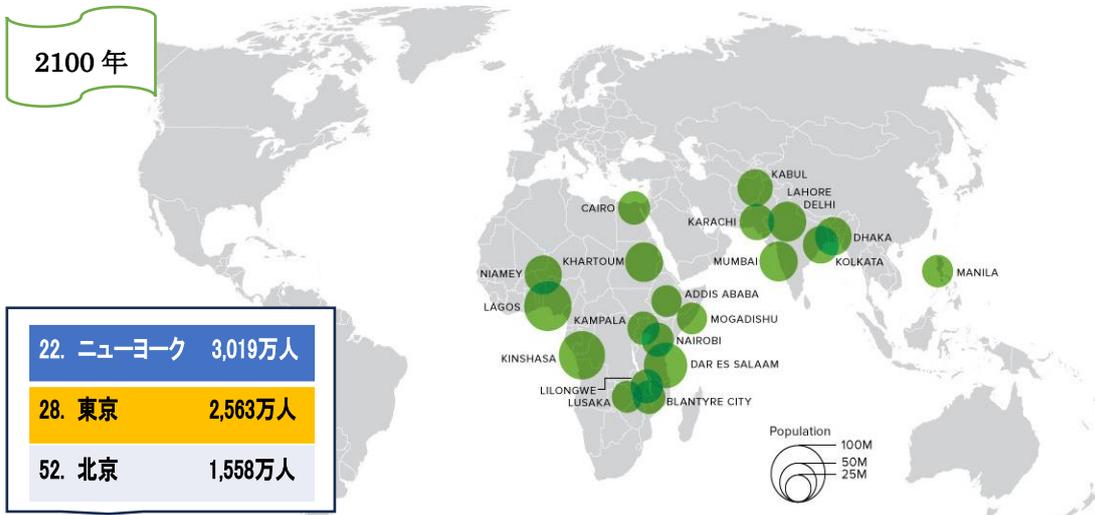
勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫  
「グローバルサウスの時代と日本」



以下二枚の地図は、カナダのオンタリオ工科大学の予測する、世界の都市圏人口ランキング上位20の変遷（2010年～2100年）を示しています。両年の上位5位までの都市名と人口は中ほどの表に挙げました。



2010年		2100年（予測）	
1. 東京	3,609万人	1. ラゴス（ナイジェリア）	8,834万人
2. メキシコシティ	2,011万人	2. キンシャサ（コンゴ）	8,349万人
3. ムンバイ	2,007万人	3. ダルエスサラーム（タンザニア）	7,367万人
4. 北京	1,961万人	4. ムンバイ（インド）	6,724万人
5. サンパウロ	1,958万人	5. デリー（インド）	5,733万人



ご覧のように 2010 年には、大都市はほぼ均等に世界に分散していました。それが 2100 年になると、ランキング上位 20 には欧米、中国、日本には無くなり、ニューヨーク（22 位）も東京（28 位）も北京（52 位）と大きく順位を落とすと見られています。

一方で、大都市はインド周辺とアフリカ、そして一部東南アジアに集中すると予測されています。尤も遠い未来の予測なので、ぴったりと当たることはないでしょう。しかし、この大都市の変遷の方向性は大きくは外れていないように感じます。

このように大局的に見ると、これからの世界経済の中心は、2100 年の地図にある大きめの丸印が示しているように「グローバルサウス」の地域になりそうです。中でもインド洋を取り囲む所謂インド洋経済圏が、これからの世界経済の檣舞台に立つと予想されます。

私たちは、欧米中心の「グローバルノース」の時代に生まれ長く生活してきました。ですので、その地域を代表する G7 諸国の動向にしか殆ど関心が無く、まだその隆盛時の余韻に浸っているようです。しかし、これから始まる「グローバルサウス」の時代には、その新しい世界秩序に対応したビジネス戦略や投資戦略が、企業の経営にも個人の資産運用にも求められそうです。